黒毛和種の放牧による発育停滞および肥育開始月齢が 肥育牛の産肉能力に及ぼす影響(予備試験)

柳田宏一·徳留虎雄·吉留浩幸*·萬田正治**·黒肥地一郎** (1983年9月30日 受理)

On the Effects of Growth Retardation due to Grazing and of Age-Variation at the Commencement of Fattening upon the Meat-Production-Capacity of Japanese Black Cattle (A Preliminary Test)

Kōichi Yanagita, Torao Tokudome, Hiroyuki Yoshidome*, Masaharu Manda** and Ichirō Kurohiji**

緒 言

戦後、大規模草地の開発が進展するに伴って、草地放牧は肉用牛の生産費低減の有力な方法として注目されてきた。しかし、近年においては、厳しい気象の影響や放牧中のエネルギー消費量の増大等による放牧育成牛の発育遅延を理由として、肉用牛の放牧を敬遠する地帯が増加している。

一方,最近においては,放牧育成牛の飼い直しによる代償性成長¹⁾および生産能力についての認識が深まるとともに,濃厚飼料を多給した舎飼い育成牛の過肥による繁殖および肥育成績の低下などに対する批判も増え,放牧育成牛の評価も徐々に高まってきている。

しかし、放牧育成中における肉用牛の発育停滞の程度および期間と飼い直し後の能力との関係に ついては、まだ不明な点が多い。

そこで、本研究においては、放牧による発育停滞および肥育開始時の月齢の違いが、黒毛和種去 勢牛の産肉能力に及ぼす影響を知るための予備試験として、生後16~22ヵ月齢まで周年放牧した去 勢牛の肥育を行い、その産肉能力について検討した。

なお本研究を行うにあたり協力いただいた伊東繁丸,池田博文,紙屋 茂および花田博之各技官 に感謝の意を表する。

材料および方法

1. 供試牛および飼養管理

供試牛としては、鹿児島大学農学部附属農場入来牧場において生産され、生後、周年放牧によって飼養されてきた、父牛を同一とする半兄弟の黒毛和種去勢牛 6 頭を用い、第 1 表のとおり、肥育開始月齢により、16ヵ月齢区、20ヵ月齢区および22ヵ月齢区の 3 区に分け、各区に 2 頭ずつ配置した。肥育は1981年11月30日から1983年 2 月15日の間に、 2 頭ずつの群飼いによって実施し、肥育終了日の目標体重を 600 kg から 650 kg,肥育終了時の月齢は32ヵ月齢以下を目標とした。

^{*}出水養鶏農業協同組合 (Izumi Poultry Agricultural Cooperative Association)

^{**}家畜管理学研究室 (Laboratory of Animal Management)

第1表 供試牛の概要 Table 1. Outline of feeder cattles

肥育開始時月齡			生時体重(烙)	肥育前 DG(kg)	肥育開始時体重(kg)	
Age in months	牛	牛年月 日	Birth weight(kg)	Daily gain before	Initial body weight	∜
at the com-	E -	: - -		fattening(kg)	at the commence-	-
mencement of	Co++10 M2	Birth date			ment of fattening	Bull
fattening	Cattle 190.	חוות ממנכ	平均值土標準偏差	平均值土標準偏差	平均值土標準偏差	
-			$\overline{X} \pm S.D.$	$\overline{X} \pm S.D.$	$\overline{X} \pm S.D.$	
16ヵ月齢	1307	1980 7 29	t 1.		- L	1
16 months old	1312	1980 8 19	72.5±0.7	0.50±0.03	766.5∓5.0	亩 1 Kichiichi
20ヵ月齢	1301	1980 4 17	-		1	ÿ
20 months old	1302	1980 4 18	28.0±2.8	0.52 ± 0.01	305.5±5.0	音 1 Kichiichi
22ヵ月婚	1289	1980 2 14	-			,
22 months old	1292	1980 2 22	33.5±2.1	0.62 ± 0.04	400.0 ± 25.5	击 1 Kichiichi

第2表 飼料給与計画 Table 2. Plan of feed supply

肥育開始時月齡		濃厚 。		₩ <u>0</u>	粗 飼 料 Doughood
Age in months		Concentrated teed			ougiiago
at the commence- ment of fattening	前期(1~20週) Former period	中期(21~34週) Middle period	後期(35週~終了) Latter period	サイレージ(給与期間) Silage (Supplying period)	乾草(給与期間) Hay (Supplying period)
	(1 to 20 weeks)	(21 to 34 weeks)	(35 weeks to end)		
16ヵ月齡 16 months old	1.8 ¹⁾	1.6"	飽食 Full feeding (210) ²⁾	飽食 (1~26週) Full feeding (1 to 26 weeks)	2 kg (19~26週) (19 to 26 weeks) 飽食 (27週~終了)
					Full feeding (27 weeks to end)
20ヵ月齡	:	飽食 Full feeding	飽食 Full feeding	飽食(1~20週) Full feeding	$2 kg (19 \sim 20)$ (B) to 20 weeks)
20 months old	1.6	0	$(140)^{2}$	(1 to 20 weeks)	飽食(21週~終了) Full feeding (21 weeks to end)
22ヵ 月 蟾舎		飽食 Full feeding	飽食 Full feedino	飽食(1~20週) Full feeding	$2 kg (19 \sim 20$ 周) (19 to 20 weeks)
22 months old	1.4^{10}		(70)2)	(1 to 20 weeks)	飽食(21週~終了) Full feeding (21 weeks to end)

1):各期首体重に対するパーセント

Percentage to initial body weight of each period.

2):後期の肥育日数

Fattening days of the latter period.

第3表 給与飼料の成分と養分量 Table 3. Chemical composition and digestible nutrients of the supplied feed

		給与時期 Periods of	水分 (%) Water	粗たん白 質 (%) Crude	粗脂肪 (%) Crude	可溶無窒 素物(%) Nitrogen	粗纖維 (%) Crude	粗灰分 (%) Crude	TDN	DCP
		feeding	(%)	protein (%)	fat (%)	free extract (%)	fiber (%)	ash (%)	(%)	(%)
濃厚飼料 Concentrated feed	配合飼料 Formula feed	全期間 Whole period	13.6	12.1	2.8	62.0	4.5	5.0	73.0	9.5
	ンルゴー Sorghum	1981.12.	8.92	3.5	1.2	9.3	6.2	3.0	13.2	1.9
	"	1982. 1.	77.5	3.0	1.0	9.2	6.4	3.0	12.7	1.6
; ;	11	1982. 2.	71.3	4.0	1.3	11.6	8.5	3.4	16.5	2.1
サイアーン Silage	11	1982. 3.	75.1	2.1	8.0	12.7	7.5	1.8	16.2	1.1
	トウモロコシ Corn	1982. 4.	74.5	2.0	0.5	14.8	6.4	1.8	16.5	1.1
	11	1982. 5.	79.5	1.7	0.7	10.9	5.5	1.8	13.2	6.0
	オーチャード主体 Mainly orchardgrass	1982. 4.	43.0	6.7	1.2	28.1	16.0	5.0	34.5	4.1
	"	1982. 5.	21.1	4.0	1.2	39.8	28.5	5.4	48.8	2.5
	"	1982. 6.	22.5	9.6	1.4	36.2	23.2	7.2	46.6	5.9
	"	1982. 7.	9.61	8.9	1.5	37.7	25.7	8.9	48.8	5.5
拉	"	1982. 8.	22.8	8.7	1.3	31.7	25.7	6.6	44.6	5.4
长年 Hay	11	1982. 9.	22.2	8.3	1.5	34.4	25.5	8.2	46.2	5.2
•	"	1982.10.	19.2	8.6	1.7	35.8	25.6	8.0	48.4	6.1
	11	1982.11.	20.4	11.0	1.4	35.4	26.1	5.8	48.8	8.9
	"	1982.12.	20.8	8.2	1.3	37.2	56.6	5.8	48.6	5.1
	"	1983. 1.	15.4	8.5	1.5	39.5	29.3	5.8	52.3	5.3
	"	1983. 2.	15.4	8.5	1.5	39.5	29.3	5.8	52.3	5.3

また、供試牛は1日に約1時間、パドック内で自由運動させた。

2. 測定項目

(1) 飼料採食量の測定

毎日残食量を計り、給与量との差によって各飼料の採食量を求めた。また、粗飼料については 2週間毎に試料を採取して分析を行い、日本標準飼料成分表の消化率⁵⁾を用いて可消化養分総量 (TDN)を求めた。

(2) 体重および体各部位の測定

肥育期間中の増体量および発育状態を知るため、体重は2週間毎に、体各部位(11部位)は4週間毎に、毎回一定時刻に測定した。

(3) 枝肉の測定および格付

肥育終了後の供試牛は南九州畜産興業株式会社(鹿児島県曽於郡末吉町)において、屠殺解体が行われ、枝肉重量、枝肉歩留りおよびロース芯面積の測定のほか、日本食肉格付協会による枝肉格付がなされた。

結果と考察

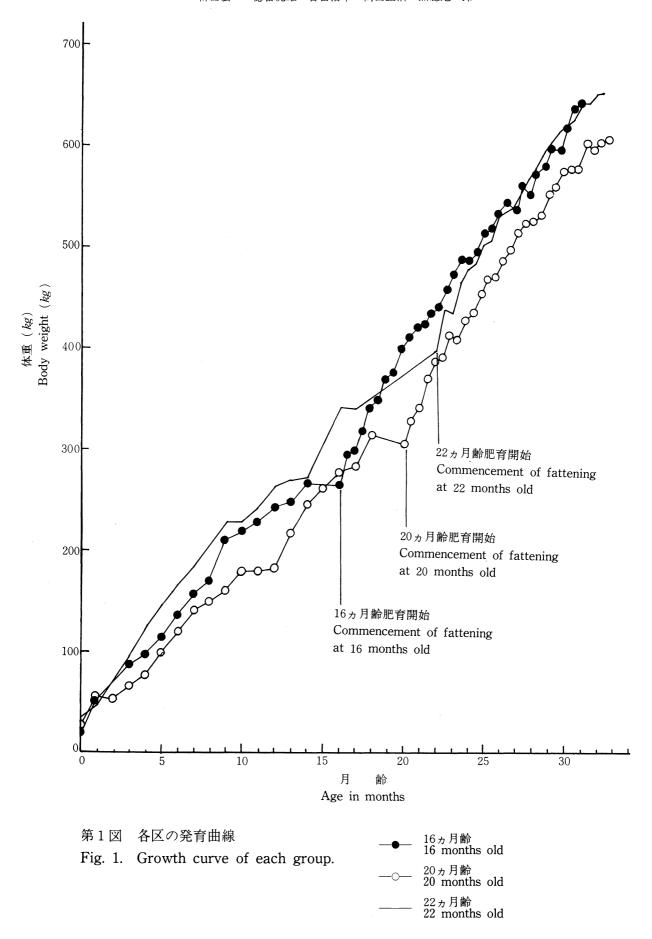
1.増体および発育

(1) 增体状況

各区の肥育開始前(放牧中)および肥育中の増体曲線並びに各時期における1日当りの増体量(DG)は第1図および第4表のとおりである。

先ず、16ヵ月齢区と20ヵ月齢区とを比較すると、16ヵ月齢時の体重には大差はみられなかったが (16ヵ月齢区平均 266.5 ± 5.0 kg、20ヵ月齢区平均 279.5 ± 4.9 kg)、16ヵ月齢区は31ヵ月齢で平均体重 が 641.8 ± 20.9 kgに達したのに対し、20ヵ月齢区は、16ヵ月齢区よりも肥育開始月齢が4ヵ月遅れた ため、32ヵ月齢で平均体重が 608.5 ± 15.6 kg となった。このため、両区の肥育期間中の DG の差は 5%水準で有意であった。また。周年放牧中の発育が3 区中で最もよく、16ヵ月齢時における平均体重 $(342.5\pm16.3$ kg)も最も重かった22ヵ月齢区は、16ヵ月齢区と比べて6ヵ月遅く肥育を開始したにもかかわらず、31ヵ月齢では、16ヵ月齢区とほぼ同じ体重(645.0 ± 28.3 kg)となり、32ヵ月齢では、平均 668.3 ± 25.8 kg となった。このように3 区間では、20ヵ月齢区の肥育終了時の体重が最も小さかった。また、全区の平均体重は 639.5 ± 31.4 kg となり、3 区とも目標体重に達した。

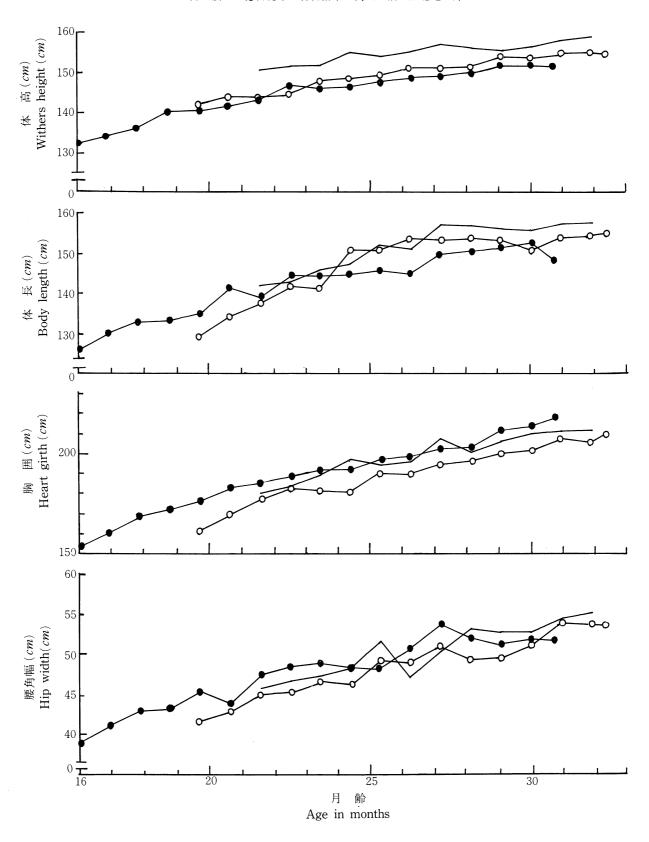
低栄養がその後の産肉能力に及ぼす影響については多くの研究 $^{2\sim4,6\sim11)}$ がなされているが、肥育開始が $8\sim10$ ヵ月齢、肥育期間が $15\sim18$ ヵ月、仕上げ体重600~kg以上の一般的な去勢牛肥育においては、前期のDGは0.11~kgから0.45~kg $^{6,8)}$ では不十分で、0.65~kg $^{7)$ 程度は必要であるとされている。今回の試験に用いた素牛の生後から肥育開始時までのDGは、16ヵ月齢区で0.56~kg、20ヵ月齢区で0.52~kg、22ヵ月齢区で0.62~kgであり、いずれも0.65~kgには達していなかった。しかし、各区と



第4表 各時期における1日当りの増体量 Table 4. Daily gain during each period

Age in months at the comment of fattening months of age mencement of fattening at the comment of fattening mencement of fattening fattening fattening $\frac{\pi \text{bull} \pm \frac{\pi}{4} \text{sign}}{X \pm \text{S.D.}}$ $\frac{\pi \text{c.s.D.}}{X \pm \text{C.s.D.}}$ $\frac{\pi \text{c.s.D.}}{X \pm \text{C.s.D.}}$ $\frac{\pi \text{c.s.D.}}{X$		肥了	肥 育 前 Before fattening		肥 Period of	肥育期 Period of fattening		
平均値土標準偏差 平均値土標準偏差 平均値土標準偏差 平均値土標準偏差 平均値土標準偏差 平均値上標準偏差 下均位 水房	肥育開始時月齡 Age in months at the com- mencement of	生時~16ヵ月齡 Birth to 16 months of age	生時~肥育開始時 Birth to com- mencement of fattening	前 斯 Former period	中 期 Middle period	後期 Latter period	全期 Whole period	生時~肥育終了時 Birth to finish of fattening
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	fattening	平均值土標準偏差 $\overline{X} \pm S.D.$	平均值土標準偏差 X ± S. D.	平均值土標準偏差 $\overline{X} \pm S. D.$	平均值土標準偏差 $\overline{X} \pm S.D.$	平均值土標準偏差 \overline{X} ±S.D.	平均值土標準偏差 $\overline{X} \pm S. D.$	平均值土標準偏差 $\overline{X} \pm S. D.$
$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	16ヵ月齡 16 months old	(kg) 0.56 ± 0.03 480^{11}	(kg) 0.56 ± 0.03 $480^{1)}$	$(kg) 1.11 \pm 0.12 140^{1)}$	(kg) 0.69±0.15 98^{11}	$(kg) \\ 0.75\pm0.13 \\ 204^{11}$	$(kg) \\ 0.85 \pm 0.06 \\ 442^{11}$	$(kg) \\ 0.67 \pm 0.03 \\ 922^{11}$
0.37 ± 0.03 0.62 ± 0.04 1.00 ± 0.04 0.84 ± 0.01 0.66 ± 0.07 0.87 ± 0.01 0.65 ± 0.07 480^{13} 660^{13} 140^{13} 98^{13} 71^{13} 309^{13}	20ヵ月齡 20 months old	0.59 ± 0.01 480^{11}	0.52 ± 0.01 600^{13}	1.07 ± 0.02 140^{-1}	0.74 ± 0.07 98^{1}	0.58 ± 0.11 141^{11}	0.80 ± 0.05	0.59±0.01 979 ¹⁾
	22ヵ月齡 22 months old	0.37 ± 0.03 480^{1}	0.62 ± 0.04 660^{11}	$1,00\pm0.04$ 140^{10}	0.84 ± 0.01 98^{10}	0.66 ± 0.07	0.87 ± 0.01 309 1)	0.65±0.03 969 ¹¹ •

1):期間中の日数 Elapsed days during the respective period



第2図 肥育開始月齢の違いによる体各部位の発育

Fig. 2. Growth curve of the respective parts of physical constitution corresponding to the difference in the ages in month at the commencement of fattening.

第5表 1頭当り飼料摂取量 Table 5. Quantity of feed intake per head of cattle

肥育開始時月齡 Age in months at the com- mencement of fattening) 要求	1 ~10週 1 to 10 weeks	11~20週 11 to 20 weeks	21~30週 21 to 30 weeks	31~40週 31 to 40 weeks	41~50.)周 41 to 50 weeks	51~60週 51 to 60 weeks	61~63週 61 to 63 weeks	肥育全期間の 1頭当り飼料 摂取量 Feed intake per head during the .whole
	濃厚飼料 Concentrated feed	(kg)	(kg) 4.52	(kg)	(kg)	(kg) 7.86	(kg) 8.18	(kg) 8.80	(kg) 2,887.6
16ヵ月齢 16 months old	サイレージ Silage	17.40	17.52	2.08		I	1		2,800.0
	乾草 Hay		0.20	3.62	2.70	1.66	1.44	1.40	705.6
	濃厚飼料 Concentrated feed	4.58	5.26	7.90	8.28	8.56	8.25	I	2,651.6
20ヵ月齢 20 months old	サイレージ Silage	17.84	16.80	2.02	1	1	1		2,566.2
	乾草 Hay	J	0.22	3.56	2.44	1.84	1.78		613.2
	濃厚飼料 Concentrated feed	5.14	5.76	8.86	8.22	8.46		I	2,196.6
22ヵ月齢 22 months old	サイレージ Silage	19.02	16.92	1.98			1	1	2,654.4
	乾草 Hay	ı	0.20	3.46	2.38	1.92			470.4

も、特に、肥育前期の DG は多く、明らかに代償性成長 11 が認められた。しかし、その程度は、肥育前期を最も若い月齢で経過した16ヵ月齢区が最も多く、開始時の月齢が最も遅い22ヵ月齢区が最も少なかった。このことから、16~22ヵ月齢での肥育開始では、月齢の若い区ほど代償性成長が発現する傾向にあることが推察された。また、肥育期間中の DG は、肥育前の放牧期間中の発育停滞の程度が低く、その期間が短い区ほど多くなる傾向を示した。このことは、放牧育成牛の肥育においては、生時から肥育開始時までの放牧期間における DG の向上が重要であることを示唆している。

(2) 体各部位の発育

肥育期間中における各区の体各部位の発育について、測定した11部位のうち、体高、体長、胸囲および腰角幅は第2図のとおりである。

体高においては、肥育開始時の月齢が進んでいた22ヵ月齢区の増加が極めて少なく、16ヵ月齢区と20ヵ月齢区はほぼ同様な発育が認められた。他の各部位においては、各区ともほぼ同様に増加した。肥育期間中における増加傾向が顕著であった部位は、体長、胸囲、腰角幅および胸深であった。このように、本試験においては、体各部位では骨格の発育に影響を与えるほどの低栄養下の放牧ではなかったため、各部位とも、肥育開始後順調な発育を示し、放牧期間中の発育停滞の影響は少なかったものと思われる。

2. 飼料および養分摂取量

肥育期間中の1日1頭当りおよび全期間中の飼料摂取量は第5表のとおりである。

各区とも、肥育開始後20週間においては、その後の肥育期と比べ、著しく粗飼料の摂取量が多く、その後の肥育期間においては、粗飼料の摂取量は少なく、濃厚飼料の摂取量は飽食に近いものとなり、いわゆる前期粗飼料多給型肥育に準じた飼料摂取傾向を示した。また、肥育全期間における1頭当り飼料摂取量は、肥育期間の長さに応じて、16ヵ月齢区が最も多く、22ヵ月齢区が最も少なく、特に、濃厚飼料摂取量においてその傾向が強かった。

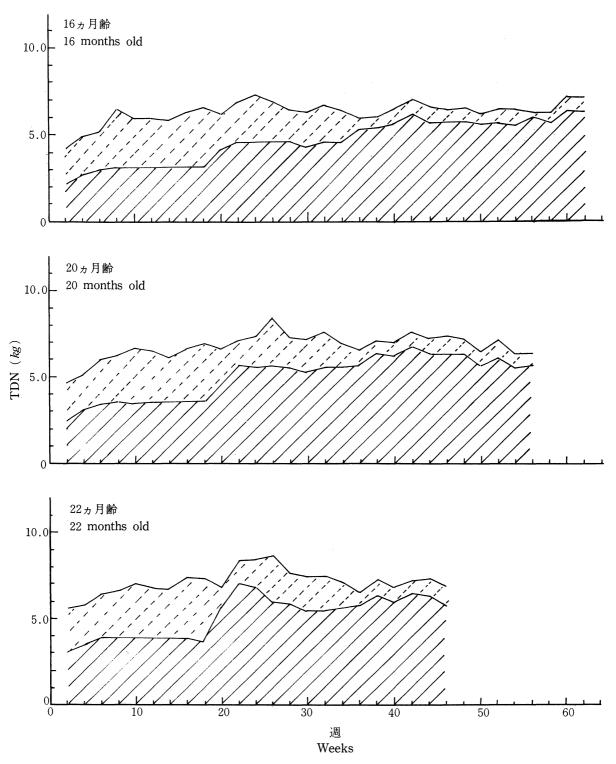
各区における肥育期間中の1日1頭当り養分摂取量の推移を見ると第3図および第4図のとおりである。

TDN および可消化粗蛋白質(DCP)ともに、前半期において漸増した。また、16ヵ月齢区と22ヵ月齢区では、肥育開始後約2ヵ月間は、TDN 摂取量に対して明らかに高い DG を示した。しかし、20ヵ月齢区ではその傾向は認められず、肥育初期においても、TDN 摂取量に対する DG は少ない値を示した。後半期においては、各区とも、TDN および DCP ともにほぼ一定の摂取量を示し、肥育終了前の20週間の1日1頭当9平均 TDN 摂取量は、16ヵ月齢区が6.77 kg、20ヵ月齢区が7.16 kg、22ヵ月齢区が7.42 kg となった。

3. 肥育成績

各区の終了時体重, DG, 肥育度指数, 養分摂取量および1 kg 増体当り養分量を示すと第6表のとおりである。

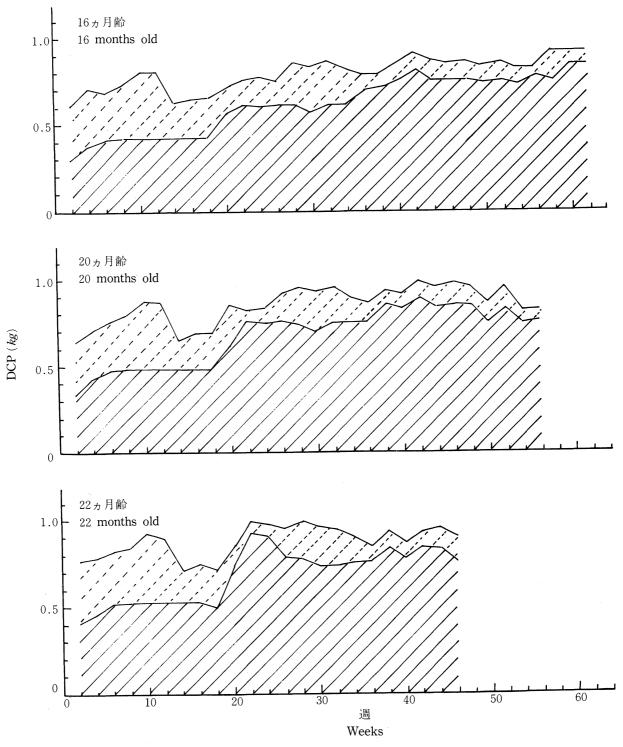
終了時体重,DG および肥育度指数に関しては,16 ヵ月齢区と22 ヵ月齢区がほぼ同様な値を示し,20 ヵ月齢区が最も悪い成績を示した。また,肥育期間中の1 kg 増体当り TDN 摂取量は,16 ヵ月齢区が7.57 kg,20 ヵ月齢区が8.66 kg,22 ヵ月齢区が8.27 kg となった。これらの値は,肥育開始が $8 \sim 10$ ヵ月齢,肥育期間が $15 \sim 18$ ヵ月,仕上げ体重600 kg 以上の一般的な去勢牛肥育の場合と比較して,かなり高い値を示しており,肥育開始月齢の遅れが大きく影響しているものと推察された。また,肥育期間中の1 kg 増体当り養分量はTDN,DCP ともに,肥育開始月齢が早い区および生時から肥育開始時までのDG が多い区が小さくなる傾向を示した。これらのことからも,肥育素牛の



第3図 1日1頭当り TDN 摂取量の変化

Fig. 3. Changes in TDN-intake per head per day.

に対する。<



第4図 1日1頭当り DCP 摂取量の変化

Fig. 4. Changes in DCP-intake per head per day.

に対けが、に対けが、に対けが、に対けが、を対する

第6表 肥育成績 Table 6. Results of fattening

)						
肥育開始時月齡	終了時月齡(月)	肥育期間(日)	開始時体重(㎏)	終了時体重(㎏)	1日当り増体量(㎏)	肥育度指数	養分摂取量(㎏)	1 ㎏ 增体
A contraction of		Dowing	1.141.1	7 1		D. d.:	Nutriment	当り養分摂 西阜(4人)
Age in months		reriog oi	mnai	rinai weignt	Daily gain	Dody weignt	IN UCL IIII CELIC	収重(%)
at the com-	(months)	fattening	weight(kg)	(kg)	(kg)	(kg)/withers	intake (kg)	Nutriment
mencement of		(days)				height (cm)		intake per
fattening						×100		kg gain
								(kg)
			平均值土標準偏差	平均值土標準偏差	平均值土標準偏差	平均值土標準偏差	TDN (Upper)	TDN (Upper)
			$\overline{X} \pm S.D.$	$\overline{X} \pm S.D.$	$\overline{X} \pm S.D.$	$\overline{X} \pm S.D.$	DCP (Lower)	DCP (Lower)
16ヵ月齢 16 months old	31	442	266.5±5.0	641.8±20.9	0.85±0.06	489.3±12.5	2,834.7	7.57
							346.4	0.92
一日 神子								
20 months old	32	379	305.5 ± 5.0	608.5 ± 15.6	0.80 ± 0.05	453.7 ± 5.4	2,304.6	8.66
							282.1	1.07
Δ# H . 60								
22 months old	32	309	400.0 ± 25.5	668.3 ± 25.8	0.87 ± 0.01	483.8 ± 9.3	2,222.6	8.27
							273.1	1.02

第7表 枝肉の測定値

Table 7. Measured value of carcass

ロース芯面積 (cm^2) Rib eye area (cm^2) 平均値土標準偏差 $X\pm$ S.D.	38.6±6.0	36.2 ± 1.4	37.7 ± 3.3
枝肉歩留り(%) Dressing percent(%) 平均値土標準偏差 X±S.D.	59.3±1.5	60.5±0.3	59.7±0.9
校內重量 (kg) Carcass weight (kg) 平均值土標準偏差 \overline{X} ±S.D.	370.5 ± 21.9	$374.3\pm\ 2.5$	398.9 ± 20.9
Re 開始時月齡 Age in months at the com- mencement of fattening	16ヵ月齡 16 months old	20ヵ月齡 20 months old	22ヵ月齡 22 months old

第8表 枝肉格付

Table 8. Carcass grading

肥育開始時月齡 Age in months				∯ Confor	外観 Conformation			^β Meat	肉質 Meat quality		
at the commencement of	牛番号 Cattle No.	枝肉重量 Carcass weight	均称 Appearance	內付 Flesh- ness	脂肪付着 Fat covering	仕上(ず Finish	脂肪交維 Marbling score	色沢 Color	きめ しまり Texture and firmness	脂肪の質 色沢 Quality and color	総合格付 Total grade
16ヵ月齢	1307	+ 3	+ 2	+ 2	+ 2	+ 3	+ 1	+ 2	+ 2	+3	+1
16 months old	1312	+ 3	+	+	+ 1	+ 3	0 +	0 +	0 +	0 +	0 +
20ヵ月齢	1301	+	+ 2	+ 1	+ 1	£ +	+ 2	+ 2	+ 1	+ 2	+ 1
20 months old	1302	+ 3	+ 5	+ 1	0 +	+ 3	0 +	0 +	0 +	+	0 +
22ヵ月齡	1289	+ 3	+ 2	+ 2	+ 2	ب +	+ 1	+ 1	+	+ 2	+
22 months old	1292	+ 3	+ 2	+ 2	+ 1	+ 3	0 +	0 +	0 +	+1	0 +
+ 2, +	+5, +4:特選 Rveellent	+ 3:極_	南上	+ 2 : E	L Modium birch	+1:# Mod		#: 0 +			
	דיסטעק	בוור	2000	INTERT	mii-iiigii	nain	IImir	ואזכה	MIEUMIII-IOW		

放牧においては、努めて放牧期間中のDGの向上をはかり、また、著しい肥育開始月齢の遅れを防ぐ必要があると思われる。

4. 枝肉の測定および格付

枝肉の測定値を第7表に、枝肉の格付結果を第8表に示した。

16ヵ月齢区と20ヵ月齢区を比較した場合、肥育終了時の体重に有意な差が認められたにもかかわらず、枝肉重量ではほぼ同様な値を示した。3区の中では、肥育開始時体重も大きく、仕上げ体重も最も大きかった22ヵ月齢区の枝肉重量が最も大きい値を示した。枝肉歩留りは、前述の一般的な去勢牛肥育の値より低い傾向が認められ、肥育開始月齢の差は認められなかった。また、ロース芯面積も各区ともに小さい値を示した。枝肉格付の結果は、枝肉重量においては各区とも極上、枝肉の均称においては大部分が上であったが、肉付や脂肪付着は並ないし上で、20ヵ月齢区は並ないし中であった。また、肉質について見ると、全体的に評価が低く、特に、脂肪交雑が少なく、肉色がやや濃い傾向を示し、肉のしまりも悪い個体が多く見られ、格付も並ないし中のものが多かった。総合的な枝肉格付結果は、各区とも中と並がそれぞれ1頭ずつとなり、低い格付結果となった。このようなことから、枝肉歩留りが低く、ロース芯面積が小さく、枝肉の肉質評価が低かった原因が、放牧期間中の長期の発育停滞によるものか、あるいは種雄牛の影響によるものかは、さらに今後の検討が必要である。

摘 要

周年放牧による発育停滞や肥育開始月齢の差が産肉能力に及ぼす影響を明らかにするため、鹿児島大学農学部附属農場入来牧場で生産された黒毛和種去勢牛6頭を用いて予備試験を行った。肥育開始月齢により、去勢牛を16ヵ月齢区、20ヵ月齢区および22ヵ月齢区の3区に分け、各区に2頭ずつ配置した。その結果は次のとおりである。

- 1. 生後16~22ヵ月齢までの周年放牧によって発育停滞を認めた去勢牛を肥育した結果, 31~32ヵ月齢で, 平均体重が 639.5±31.4 kg に達した。
- 2. 各区とも肥育前期(140日間)に代償性成長が認められ、肥育開始月齢の若い区ほど前期に おける DG は多くなる傾向を示した。
- 3. 16ヵ月齢区、20ヵ月齢区および22ヵ月齢区の肥育期間中における DG は、それぞれ0.85生 0.06 kg、0.80±0.05 kg および 0.87±0.01 kg で、肥育開始前の発育停滞期間が長く、増体量 も少ない場合は、肥育期間中における増体量も少ないことが示唆された。
- 4. 体格部位の発育は各区間に有意な差は認められなかった。
- 5. 16ヵ月齢区,20ヵ月齢区および22ヵ月齢区の肥育期間中の1 kg 増体当り養分摂取量(TDN)は,それぞれ7.57 kg,8.66 kg および8.27 kg で,各区とも一般の去勢牛($9\sim10$ ヵ月齢)肥育の場合よりも多い傾向を示したが,16ヵ月齢区は20ヵ月齢区および22ヵ月齢区に比べて少なかった。
- 6. 各区の枝肉重量,枝肉歩留りおよびロース芯面積は,16ヵ月齢区で370.5~kg, 59.3%, $38.6~cm^2$, 20ヵ月齢区で374.3~kg, 60.5%, $36.2~cm^2$ および22ヵ月齢区では398.9~kg, 59.7%, $37.7~cm^2$ であり,枝肉歩留りおよびロース芯面積において小さい値を示した。枝肉格付結果は各区とも中および並であり,各区間に有意な差は認められなかった。

文 献

Summary

Making use of the six Japanese Black Cattle steers produced at the Iriki Livestock Farm, Kagoshima University, as the materials, some preliminary tests were carried out to ascertain the effects of the growth retardation due to the whole year grazing and of age-variation at the commencement of fattening upon the meat production capacity. In these experiments, at the commencement of fattening, the six feeder cattles were divided into the three groups, the first group consisting of those of 16 age in months; the second, of 20 age in months; and the third, of 22 age in months; to each group were supplied 2 individuals, respectively.

The results obtained are as follows:

12: 1-15.

- 1. Fattening was commenced in the feeder cattles in which the growth retardation was noted at 16 to 22 ages in months in case of the whole year grazing, as the result of which, the final body weight of those cattles reached $639.5 \pm 31.4 \ kg$ at 31 to 32 ages in months.
- 2. In the respective groups it was in the first period (140 days) that the compensatory growth was noted, and it was observed that in the group in which the fattening was commenced earlier the larger was apt to be the daily gain (DG) observable in the former period.
- 3. The average daily gains during the fattening period in 16, 20 and 22 months age groups were 0.85 ± 0.06 kg, 0.80 ± 0.05 kg and 0.87 ± 0.01 kg, respectively. These suggested that the longer was the growth retardation period prior to the commencement of fattening, and the lesser was the daily gains, the lesser was the daily gain during the fattening period, too.
- 4. Through the three groups, no significant difference was noted in the growth rates in the respective body parts measured.

放牧による発育停滞および肥育開始月齢が産肉能力に及ぼす影響

- 5. The total digestible nutrients (TDN) intakes per kg gains during the fattening period in the 16, 20 and 22 months age groups were 7.57 kg, 8.66 kg and 8.27 kg, respectively. This means that the feed conversion ratio in the three age groups were fixed to be higher than those of the normal steers (9~10 ages in month), and the feed conversion ratio in the 16 months age group were fixed to be lower than those of the 20 and 22 months age groups.
- 6. In the three groups, the dressed carcass weight, the dressing percentage and the rib eye area were $370.5 \, kg$, $59.3 \, \%$ and $38.6 \, cm^2$ in the 16 months age group; $374.3 \, kg$, $60.5 \, \%$ and $36.2 \, cm^2$ in the 20 months age group; and $398.9 \, kg$, $59.7 \, \%$ and $37.7 \, cm^2$ in the 22 months age group, respectively. These dressing percentages and rib eye area showed lower value than those observable in the normal fattening steers. Carcass grades were medium or medium-low in either group, and no significant differences were noted in the three groups.